

トピックス：「第2回日韓超電導ワークショップ」開催

九州大学
大学院システム情報科学研究所
教授 木須隆暢



日韓超電導ワークショップ集合写真

2010年10月26日～27日にかけて、「第二回日韓超電導ワークショップ2010 (JKSW 2010) — 超電導技術で拓くグリーンイノベーション —」が福岡市で開催された。議長：塩原融氏（超電導工学研究所）、実行委員長：木須隆暢（九州大学）、主催：産業用超電導線材・機器技術研究組合、財団法人国際超電導産業技術研究センター、社団法人応用物理学会、九州大学超伝導システム科学研究センター、後援：K-MEM R&D クラスタ（韓国）、協賛：九州大学電気システム工学部門・組織的な大学院教育改革推進プログラム「5つの力をもつシンセシス型博士人材の育成」、低温工学協会。

本ワークショップは、共に国家プロジェクトを中心とした研究進展の著しい日韓両国の主にイトリウム系超電導線材の研究に携わる研究者を中心に、その情報交換の場として発足した。第1回は2010年2月に韓国釜山で開催され、今回は、それに続く初の日本開催であった。CCA 2010が福岡で開催されるのを機に、その前日に同じく福岡市で開催され、日韓両国より59名（日本38名、韓国21名。内、学生・若手研究者35名）の参加があった。

今回は特に、超電導分野の多くの研究者と高度な研究施設が集積する九州地区の特長を生かしてアジアとの連携を強化すると共に、超電導分野の次代を支える若手技術者、研究者の育成を目的として、産業用超電導線材・機器技術研究組合ならびに学会等の支援を得て実施した。先導的研究開発を牽引する日韓の著名研究者による招待講演に加え、日韓相互の学生・若手研究者の特別セッションを実施し、その中の優れた研究に対し、最優秀若手研究者賞1名（九州大学・マツエック アルカディ氏）を含む、13名に賞が授与された。特別セッションは、ショート講演とポスターセッションとで構成されており、ショート講演での適度の



招待講演（超電導工学研究所 和泉氏）

緊張感に加え、ポスターセッションでの質疑は非常に活発で、予想以上の教育効果があり、参加者からの意見も好評であった。審査員は、事前に議論した Preparation, Presentation Style, Information transfer, Discussion などの項目に関する評価シートを用いて審査を行い、韓国側の審査員は日本の発表者を、日本側の審査員は韓国側の発表者を審査することで、より客観的でかつ多面的な評価と意見交換を行った。学生にとっても、国際会議入門の良い刺激と経験になった事が伺える。また、各講演者の研究対象は、材料プロセスから、計測・評価、システム応用にいたるまで広い裾野を形成しており、今後の本分野における両国の更なる発展を予感させるものであった。



日韓超電導ワークショップ受賞者

今回はソウル大学の Yoo 教授、韓国梨花女子大の William Jo 教授を中心に、ソウルでの開催が予定されている。

本ワークショップに関する詳細は、会議のホームページでも見る事が出来る。

<http://www.cca2010.org/jk-workshop/>

[超電導 Web21 トップページ](#)